

# 高山帯の移入コマクサ

科名：ケシ科  
 学名：Dicentra peregrina  
 (国内由来の外来種\*)

## 【どんな被害を引き起こすのか】

### 生態系：遺伝的攪乱

- ・本来生育していない場所に侵入・定着することにより、本来の自然景観や生態系を損なう
- ・自生のコマクサが生育する場所では、地域に固有な個体の遺伝情報の攪乱を引き起こす

## 【生育場所】

- ・高山帯に生える
- ・稜線上の風衝砂礫地や火山砂礫地に生育する
- ・礫の移動のほか、風雪が強く、乾燥し、直射日光の強い厳しい環境に生育する



- ・花茎は高さ6～10cm
- ・花期は7～8月
- ・上端に短い総状の花序をつけ、2～7花を開く
- ・花は淡紅色で、長さ約2cm、幅1cm内外

- ・数個の葉を根生する
- ・葉は柄があって3出状に多数に細かく分裂し、長さ幅ともに3～5cm
- ・葉の終裂片は線状長楕円形、鈍頭で、長さ2～6mm、幅1mm
- ・紛白色を帯び、全縁



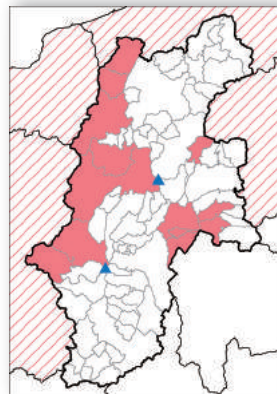
## 【どこまで広がっているか】

### 長野県では

- ・自生地は北アルプスと八ヶ岳、御岳等
- ・木曾駒ヶ岳や美ヶ原等に人為的に持ち込まれたものが生育

### 全国では

- ・自生地は北海道、本州（中部地方北部）
- ・支笏洞爺国立公園の羊蹄山や樽前山、日光国立公園の日光白根山、白山国立公園の高山帯では、もともと自生していなかったコマクサが人為的に持ち込まれたため、除去作業が実施されている



2019年現在 ▲ 移入地  
 ■ 自生地  
 ▨ 一部地域に自生

### 世界の分布

- ・自生地はシベリア東部、サハリン、カムチャッカ半島、千島列島

※日本国内のある地域から、もともといなかった地域に持ち込まれた場合は「外来種」となり、もともとからその地域にいる生物に影響を与える場合があります。このような「外来種」のことを「国内由来の外来種」と呼びます。国内由来の外来種であるかは、遺伝子を調べて、どの地域集団と共通しているかを確かめる必要があります。

### 高さ5～10cm（花茎）の多年生草本



開花株の根は地中深くに伸びることはないが、広範囲に伸長する



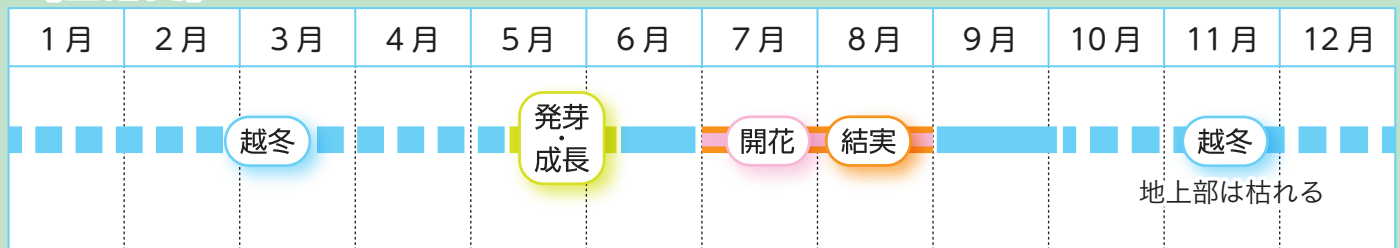
掘り採った株の根茎

- ・蒴果は狭長楕円形、長さ8～10mm、幅約4mmで、枯れた花冠に包まれる
- ・種子は黒色で光沢がある

## 【特性】

- ・高山砂礫地に生育
- ・他の植物が生育しない厳しい環境に生育する
- ・種子により繁殖する
- ・高山帯の代表的な植物の一つであり、山野草愛好家の人気が高い

## 【生活史】



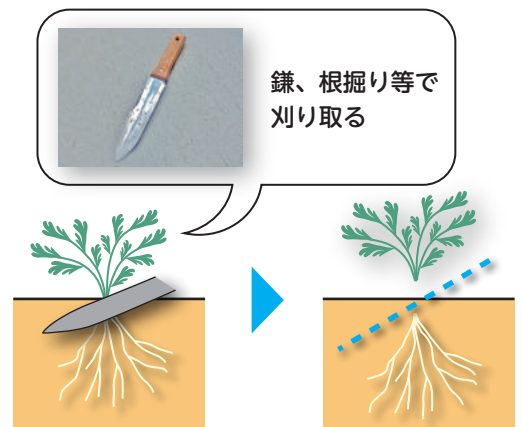
## 【防除方法】

### 他の地域に持ち込まない 拡大を防ぐ

- コマクサはきれいな花をつけ私たちの目を楽しませてくれるが、日本国内に分布する植物を本来生育していない地域に持ち込むと「国内由来の外来種」となり、その地域本来の自然を変化させてしまうことになる
- コマクサに限らず、本来の生育地ではない地域への生物の持ち込みはしないこと

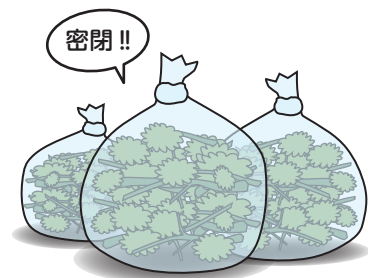
### 刈り取り 根絶を目指す ※「国内由来の外来種」である場合

- 株を根から掘り取る場合、土を大きく掘り返すと、土が雨水等で流れ出してしまう可能性があるため、掘り起こしはせずに地面の下で刈り取る
- 株の地表面下にある越冬芽の下の部分で刈り取る
- 刈り取り作業によって種子が落下する可能性があるため、結実するまでの6～7月に実施する
- 年複数回、見られなくなるまで毎年継続して実施する



### きっちりと処分する ～作業前・作業後～

- 高山帯は原生自然の希少な在来植物が生育する場所であるため<sup>[注]</sup>、駆除に際しては、対象地のコマクサが「国内由来の外来種」であるかどうかをしっかりと確認した上で実施すること
- 刈り取った株は、種子が飛散しないよう密閉できるゴミ袋等に入れて枯らす
- それぞれの自治体のゴミ処理方法に従って焼却処分する



### 【注意】

『国立公園・国定公園・長野県立自然公園・長野県自然環境保全地域』では、地区や地域ごとに植物の採取、掘り取り等が規制され、国（環境省）または県の許可が必要となる場合があります。対象地が自然公園内に該当するかについては、

[「長野県統合型地理情報システム 信州くらしのマップ」](#)のホームページサイト

をご利用ください。

また、実施にあたっては、県地域振興局環境課にご相談下さい。